今できること、情報収集の必要性

富山県教育委員会県立学校課
指導主事　牧 田　洋 一 郎

富山県高等学校教育研究会情報部会の研究紀要第 15 号発行にあたり、会員の皆様におかれましては、日頃から本県情報教育の改善・充実に多大なご尽力を頂いておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、昨年 3 月に新学習指導要領が公示されました。新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、教育課程の編成を図ることとされております。この「学習の基盤となる資質・能力」の中に、新しく「情報活用能力」が加わったことで、これまで以上に様々な教科を横断する視点が求められるとともに、教科「情報」の指導をされている会員の皆様方こそが、その先駆的な役割を担える「人財」であることを、以前お話させていただきました。

教科「情報」においては、ご存知のとおり、すべての高校生が「情報Ⅰ」でプログラミングを学ぶことになりますが、これは、2020 年度から小学校でプログラミング教育を必修化し、「時代を超えて普遍的に求められるとされる、プログラミング的思考を育成する」ことを引き継ぐものです。中学校技術分野でのプログラミング実践を経て、高校では、例えば、目の前に提示された様々な課題を、プログラミングによりコンピュータを活用させることで解決に導く、といった能力を育むことを目指しています。

小学校では必修化に向け、文部科学省が「小学校プログラミング教育の手引」の発行による指導事例の提供を行い、また、例えば富山市教育委員会では、今年度からプログラミング学習のモデル校 3 校を指定し、各教科での導入事例を積み重ねるとともに、公開授業により他校の先生方に情報提供を行うなど、着々と準備を進めておられるようです。

我々、高校指導者においても、同様の準備が求められております。

昨年 12 月 27 日に、神奈川県高等学校教科研究会情報部会実践事例報告会を視察してまいりました。年末の参加しやすい時期に日程設定を行い、また、全国から事例発表者を募集することで、県内外を問わず毎年大勢の情報科教員が集まる大会となっています。

この報告会では、ポスターセッションを含め約 30 編もの発表報告がありました。発表内容については、別の機会に改めてご紹介させていただきますが、このような発表の場に、授業力向上に繋がるヒントが数多く隠されていることを強く感じました。ある中高一貫校の発表では、中等部の生徒が実際に作成するプログラミング課題をタブレットで操作体験できることで、次の段階である高校現場に求められるレベルを窺い知ることができました。

一方、情報モラル教育など、現行学習指導要領にも通じる発表も盛り込まれており、いわゆる我々が「足もとを固める」ための指導事例も得られました。

会員の皆様には、機会があれば、このような他地域の報告会や発表大会を見学されることをお勧めいたします。また、県内においても各校の公開授業などに積極的に参加いただきたいと思います。進歩・発展が著しい情報分野では、このような情報収集が必須であると考えます。

最後になりますが、富山県高等学校教育研究会情報部会の、日頃の事業推進に心から感謝申し上げますとともに、本会のさらなる充実・発展と関係各位のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げ、激励の言葉といたします。